



水需要が減少している実態の調査を（写真は、おいしい秦野の水）

必要の減少は、他の自治体でも課題であり、水道料金の値上げにつながっている。平成30年度は水需要の増加に向け、本市のPRポイントである「安全・おいしい・安価」を広くアピールする施策を展開することだが、水需要が減少している実態をよく調査し、それに基づく対策を講じてほしい。

水道事業会計

給水収益を増やす取り組みについて

▼本会議での反対討論

水道料金に消費税を課していることや給水停止している世帯があることなどから、反対する。

▼本会議での賛成討論

農業用水道料金の恩恵を受ける農家を増やすため、畜産農家も対象とすることを要望し、賛成する。

▼採決の結果

委員会 原案可決（賛成全員）
本会議 原案可決（賛成多数）

公共下水道事業会計

▼本会議での反対討論

下水道使用料金への消費税課税や貧困世帯の負担減免制度がないことから、反対する。

▼本会議での賛成討論

県から浄化槽管理の権限委譲を受け、水洗化率の向上を目指すべきと要望し、賛成する。

▼採決の結果

委員会 原案可決（賛成全員）
本会議 原案可決（賛成多数）

環境都市分科会



地下水保全事業について

問 現行の水循環モデルを精度の高いモデルに進化させるため、地下水盆の水理構造を把握する調査ボーリングに平成29年度から取り組んでいるが、今後の取り組みはどのようなか。

答 引き続き30年度も調査ボーリングを行っていくが、把握した水

国民健康保険事業特別会計

▼本会議での反対討論

国民健康保険証を取り上げ、資格証明書や短期被保険者証を発行していることなどから、反対する。

▼採決の結果

委員会 原案可決（賛成多数）
本会議 原案可決（賛成多数）

介護保険事業特別会計

介護予防普及啓発事業の推進について

問 超高齢社会が進行する中、要介護認定を受けていない高齢者の健康増進が課題となるが、解決に向けた新たな取り組みはどうか。

答 これまでも運動メニューを中心に、介護予防につながる認知症予防の講座などを行っているが、行政提案型の市民協働事業として、NPO法人秦野市リハビリテーション協会や東海大学と協働し、効

後期高齢者医療事業特別会計

▼本会議での反対討論

年齢差別と負担増の後期高齢者医療制度を廃止し、老人保健制度に戻すべきである。

▼採決の結果

委員会 原案可決（賛成多数）
本会議 原案可決（賛成多数）

討論

▼本会議での反対討論

①公共施設再配置計画により、自治会館に児童館機能を集約させ、児童の活動時間が半減していること、②環境を破壊する新東名高速道路などの整備を進めていること、③税金を滞納している生活困窮者の生命保険を差し押さえていること、④みなみがおか幼稚園の民営化ありきで事業を進めていることなどから、反対する。

▼本会議での賛成討論

平成30年度予算の総額は、財政調整基金の取り崩しや市債発行額の抑制などにより、29年度と比較すると約5%減少し、増加傾向であった予算に歯止めがかかった。30年度のプライマリーバランスは黒字を見込んでいるが、個人市民税などの市税収入は29年度より約3億円の減となり、また、扶助費が増加している一方で投資的経



水理構造を把握し地下水マネジメントへの活用を（写真は地下水調査ボーリングの様子）

ればならない。今後は一般社団法人から公益社団法人に移行するなどの検討を進めるとともに、自立ができる組織となるよう、後押しをしてほしい。

ヤビツ峠周辺観光振興事業について

問 丹沢表尾根を訪れる都市住民や訪日外国人が、登山、ヒルクライム、里地里山体験などのレクリエーションを楽しむことができる観光拠点施設を、ヤビツ峠に整備することだが、その目的はどのようなか。

答 多くの登山客などが訪れるヤビツ峠周辺には飲食物などを提供する施設がなく、地元へ還元がされていない現状がある。そこで、行政が観光拠点を整備することで、交流人口の増加や市内消費の拡大につなげ、地域経済の活性化を図ることを目的としている。

市道改良事業について

問 東海大学前駅北口にエレベーター



観光拠点施設を整備し、地域経済の活性化を（写真はヤビツ峠）

ターなどの昇降施設を設置するため、平成30年度に設置に向けた設計委託を行うとのことだが、設置に向けての課題や今後のスケジュールはどのようなか。

答 昇降施設を設置するためのスペースが狭いこと、すでに大規模な擁壁があることなどが課題である。30年度は技術的に設置が可能であるかなど詳細な検討を進め、31年度以降から昇降施設の整備に着手できるよう努める。



中学校給食の完全実施など「5つの誓い」の実現を